

京大病院

医師が診断書偽造

エタノール誤注入 入院患者死亡事故 府警が書類送検へ

京都市左京区の京都大
学部付属病院（本田孔士病
院長）で昨年3月、難病で
入院中の女性（当時17歳）
が人工呼吸器の注水器に誤
って注入された消毒用エタ

ノールで中毒死した事件
で、京都府警捜査1課と川
端署は10日、女性の死亡診
断書にエタノール中毒の記
載をしなければ担当医（46）
を虚偽公文書作成、同行使
容疑で京都地検に書類送検
する方針を固めた。誤注入
にかかわった看護婦ら7人
も、業務上過失致死容疑で
書類送検する見通し。
患者は先天性神経系異常
の難病で10年以上前から人
工呼吸器を着け、一昨年10
月から京大病院に入院。人
工呼吸器には乾燥した空気

が肺などを痛めるのを防ぐ
ため、加温加湿器が付けら
れ蒸留水入りの合成樹脂製
タンクから2〜3時間に1
回、蒸留水を補給している。
ところが、昨年2月28日
午後6時ごろ、巡回の看護
婦が誤って消毒用エタノール
入りのタンクに交換。3
月1日深夜に気付くまで、
計5人の看護婦がエタノール
の注入を繰り返し、患者
は2日夜に死亡した。
京都府警は死亡の翌日、
病院側から届け出を受け、
司法解剖で死因をエタノール
中毒と断定。看護婦が看護
記録に誤注入の事実を遺
族に伝えていないことにつ
いての裏腹を記入していた
ことなどを重視した。
【大平誠、立上修】

京大病院人工呼吸器エタノール事件
担当医・看護師書類送検へ
2001年1月11日 毎日新聞